にとな便り

第47号
令和7年4月

独立行政法人国立病院機構千葉医療センター千葉東病院　〒260-8712　千葉市中央区仁戸名町673　℡ 043-261-5171

院長を拝命して

院長　古川　勝規

令和7年4月1日付で院長を拝命いたしました古川勝規と申します。

千葉東病院は、国立療養所千葉東病院の創設に遡ること87年目を迎え、これまで多くの医療を提供し続けてきました。このような歴史ある病院を率いる立場を任されることとなり、非常に光栄に思う一方で、その責任の重大さを痛感しております。長い歴史の中で数多くの患者様や地域社会に支えられ、ここまで発展してきた千葉東病院の伝統を受け継ぎつつ、今後さらに発展させることが私たちの使命であり、私自身の大きな挑戦であると感じています。

私は、昨年10月から千葉医療センターの院長を務めておりますが、このたびの新たな役職を拝命することとなり、両病院の連携をさらに深めていくための重要な役割を担うこととなりました。これからの新たな環境の中で、千葉東病院と千葉医療センターの双方がより強固な協力体制を築き、医療サービスの向上を目指していきます。

前任の西村元伸前院長には、5年にわたり千葉東病院を率いていただき、誠にありがとうございました。特に、コロナ禍における厳しい状況下での舵取りには並々ならぬご尽力をいただきました。先生が積み上げてこられた実績と基盤の上に立ち、私たちはさらなる発展を目指して努力してまいります。西村前院長が築いた基盤をさらに強化し、次のステージへと進んでいくことが私たちの責務です。

次に、私自身の経歴について簡単に紹介させていただきます。私は平成2年に金沢大学を卒業後、千葉大学第一外科に入局しました。その後、関連病院でのローテーションを経て、平成17年から千葉大学肝胆膵外科に常勤医師として勤務を始めました。17年間にわたり患者様一人一人と向き合いながら、専門知識と技術を磨き、最終的には准教授として後進の指導にも携わりました。その後、令和4年には千葉医療センターに統括診療部長として異動し、昨年10月からは千葉医療センターの院長を務めております。

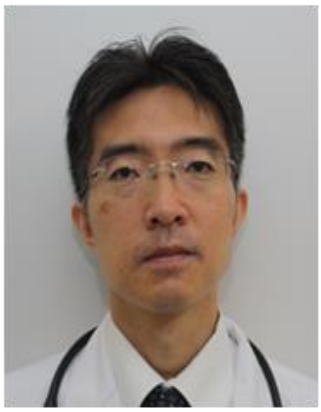
また、この度の組織再編により、千葉東病院と千葉医療センターが一組織化し、当院は「国立病院機構千葉医療センター千葉東病院」として新たにスタートを切ることとなりました。この再編の目的は、両病院間での人的交流を一層活発にし、互いに不足している部分を補い合うことで、両病院の機能を強化し、医療の質を高めることにあります。4月からは消化器内科やリウマチ・アレルギー科において、医師の相互交流が始まり、看護部でも同様に交流が進む予定です。これにより、両病院の専門性が融合し、より一層の医療の質の向上が期待されます。

私はこれまで神経難病や重症心身障害に対するいわゆるセーフティネット医療に関する直接的な経験はありませんが、この分野の重要性を理解しており、今後これらの専門分野についても学び、患者様により良い医療を提供できるよう努めていく所存です。

今後も、地域社会のニーズに応えるため、医療の質の向上と安全確保に全力を尽くしていきます。患者様、そしてそのご家族の皆様にとって、より安心して受けられる医療環境を提供するため、職員一丸となって努力していきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

病院管理者就任挨拶

副院長　本田　和弘



千葉医療センター千葉東病院の病院管理者に任命されました本田和弘と申します。千葉東病院で副院長として勤務しておりました。当院は千葉医療センターと１組織２病院として再編され令和７年４月に新たな一歩を踏み出しました。千葉医療センターと人材・物資にわたる協力を行い、効率化、省資源化、人材活躍機会の増加を目指します。組織再編はしましたが、これまで千葉東病院が積み重ねてきた医療は継続しますので、ご心配なさらないで下さい。

千葉東病院は神経難病、重症心身障碍者に対するセーフティーネット系医療とリウマチ・膠原病、腎疾患、糖尿病を主に診療している病院です。神経難病については筋萎縮性側索硬化症やパーキンソン病関連疾患などの患者さんの治療方針の自己決定支援や在宅診療との連携を行っています。重症心身障碍者病棟は開放感のあるフロアで療育指導や楽しいイベントが行われています。リウマチ・膠原病は経過の長い疾患ですが、近年の治療の進歩により、早期からの治療介入で病状の安定化が図れる期待が持てます。腎疾患は腎臓内科と小児科が担当し、疾患により腎生検を行い診断確定して治療を行います。血液浄化センターで透析も行っています。慢性腎臓病に対する生活習慣の改善指導を行い腎機能低下の進行抑制を目指します。糖尿病診療は栄養指導を主に、血糖データをもとに薬剤による治療を行い、細小血管症への進展を防ぎます。これらの疾患に合併する循環器的な問題、骨折、褥瘡、外科的あるいは歯科・嚥下の問題に対しては、それぞれ循環器科、整形外科、形成外科、外科および歯科が診療を行います。

このように慢性疾患主体の医療を行っているので患者さんとは長くお付き合いをさせていただくことになるため、親切な対応、簡潔な説明を意識し、日々の職務に携わっております。患者さんやそのご家族、そして地域に愛され信頼される病院となるよう、職員一同、着実に歩んでいく所存です。

診療科紹介　形成外科

医長　千明　信一

当院はこの４月より千葉医療センター　千葉東病院としての運営となりました。形成外科という診療科が千葉大学に発足して３０年以上、当院に発足して２０年近くになりますがまだまだ診療内容に馴染みのない方も少なくありません。ここで、当科で実施している診療、していない診療について簡単に紹介します。

当科で実施している診療	
小腫瘍	粉瘤や母斑（いわゆるホクロ）、イボ（ウイルス性の尋常性疣贅やスキンタグといわれる頸部の突起）のような小さな腫瘍の切除
足病変	巻き爪や陥入爪の保存的加療や感染を起こした陥入爪の局所麻酔下の抜爪、胼胝の切削を含めた「フットケア」 糖尿病性足病変の治療
慢性難治性潰瘍	大きな褥瘡に対して局所陰圧閉鎖療法を行っています。転院の際には医療連携室へご相談ください。
その他	眼瞼下垂の治療、特に加齢による眼瞼下垂症例 多汗症へのボトックス注射 ケロイドの薬物治療

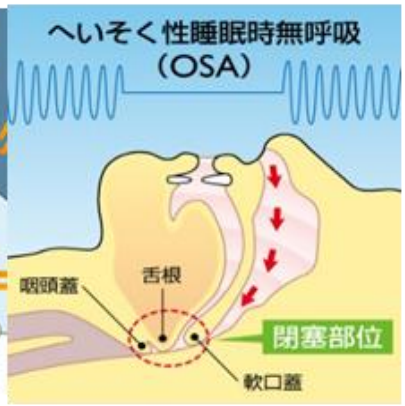
不明な場合にはご連絡ください。

当院で扱っていない診療	
全身麻酔手術	当院では全身麻酔の取り扱いを中止しています。全身麻酔手術が必要な症例は直接手術が可能な施設へご相談ください。 当科から紹介状を作成することは可能です。
顔面骨骨折	当院では全身麻酔が不可能です。直接"千葉県総合救急災害医療センター""千葉大学　形成外科"などの高次施設へご相談ください。
美容診療	当院では自費診療を取り扱っていないため、レーザー治療などについては直接自費診療を扱うクリニックにご相談ください。
小児先天奇形	千葉県こども病院等で扱っています.
手の外傷	単純な皮膚縫合は実施していますが、腱が損傷し指が伸びなかったり曲がらなかったり、神経が損傷し指先に知覚がない、など機能的整復が必要な場合は『手の外科』の受診が必要です。当科では千葉メディカルセンター　整形外科などに紹介しています。

診療科紹介　循環器内科

医師　上枝　弘雄

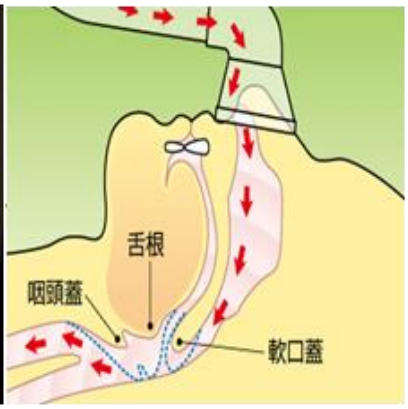
　最近、テレビやSNSで【睡眠時無呼吸症候群】という言葉をしばしば耳にしませんか？あるいは、就寝中にご家族がいびきをかいたり、一時的に呼吸が止まったりして気になったことはありませんか？
睡眠時無呼吸症候群とは、名前のとおり睡眠中に呼吸が止まったり浅くなったりを繰り返し、低酸素状態になったり、睡眠の質が低下してしまい、その結果として日中の強い眠気など諸症状を引き起こす病気の総称です。もしかしたらご家族にそのようなことが起きているかもしれません。
日中の眠気があると、集中力や意欲が低下してしまい、例えば仕事などで本来の実力が発揮しづらかったり、ミスをしたり不利益なことがありえます。さらに体の負担になることが分かっていて、脳梗塞や心筋梗塞、狭心症、不整脈といった怖い病気になるリスクが高まることや、高血圧や糖尿病、肥満への悪影響も報告されています。
実は、この睡眠時無呼吸症候群の患者は我が国に200万人以上いると言われていますが、多くの方が適切な治療を受けられていないのが現状です。睡眠時無呼吸症候群には大きく分けて2タイプあり、脳、神経、心臓の病気が原因のものを中枢型無呼吸、鼻やのどの空気の通り道が狭くなるものを閉塞型無呼吸と言い、無呼吸の治療メリットが大きいのは閉塞型無呼吸です。閉塞型無呼吸になり易いとされる身体的特徴は、肥満や顎が小さいことが有名で、他に扁桃肥大等のどの空間が狭いことの影響もあります。
　無呼吸の重症度やタイプの診断には、アプノモニター(簡易検査)と終夜睡眠ポリグラフ検査があります。それらを一晩装着して眠ることでデータを測定して判定します。当院の場合、どちらの検査も自宅で行うか入院で行うかを選択できます。
　治療法はいくつかあり、重症度や状況で選択、組み合わせます。医療機関によって対応できる内容は異なりますが、減量、CPAP(シーパップ)、マウスピース、のどを広げる手術、枕や眠る姿勢のチェック、飲酒習慣の見直しなどです。
　睡眠中の無呼吸やいびき、日中の眠気、起床時の頭痛、夜間頻尿、肥満、高血圧などいずれかが当てはまり気になる方は当院までご相談ください。



画像提供
株式会社フィリップス・ジャパン

アプノモニター(簡易検査)

CPAP(シーパップ)



CPAP使用中